

DATA 編

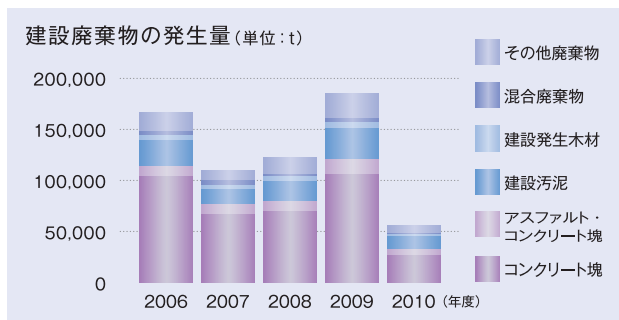
データ

マテリアルフロー



建設廃棄物の発生量

2010年度における建設廃棄物発生量は5.6万トンで、前年度より約13.1万t減少しています。品目別発生比率は、コンクリート塊が49.7%と最も多く、建設汚泥23.5%、その他廃棄物11.9%、アスファルト・コンクリート塊10.3%、建設発生木材2.8%、混合廃棄物1.8%の順になっています。



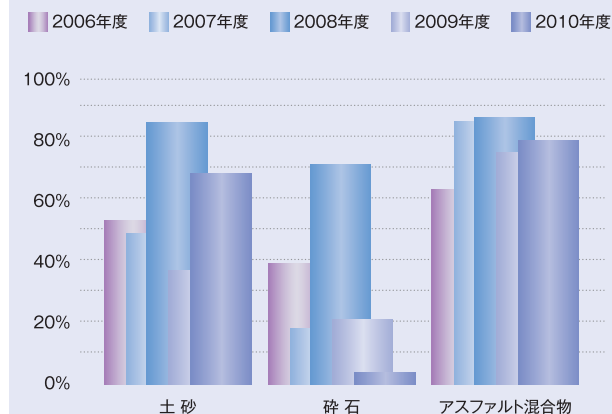
再生資材の利用率

2010年度における建設資材の現場への搬入量は、土砂3.2万m³(126.8万m³)、砕石34.4万トン(45.7万トン)、アスファルト混合物0.37万トン(1.5万トン)でした。

2010年度に搬入した建設資材のうち、再生資源利用率は、土砂69%(37%)、砕石4%(20%)、アスファルト混合物80%(74%)でした。

※()内は2009年度実績

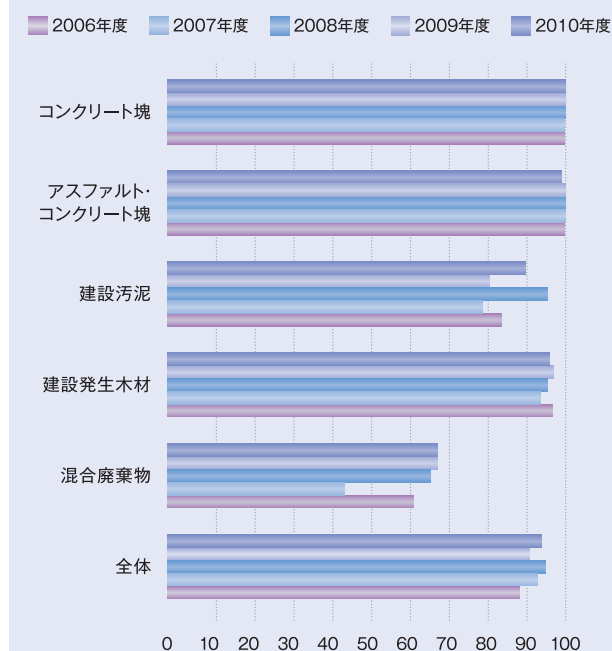
再生資材利用率(単位：%)



建設廃棄物のリサイクル率

2010年度における建設廃棄物全体のリサイクル率は94%で、2009年度の91%より3%向上しました。品目別では、コンクリート塊は100%、アスファルト・コンクリート塊99%、建設汚泥90%、建設発生木材96%、混合廃棄物68%でした。

リサイクル率(単位：%)



効果的な環境保全活動の取り組み

当社は、環境会計により環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動を効果的に実施しています。

環境会計の基本事項

■ 集計範囲	■ 対象期間	■ 集計方法
東亜建設工業単体(国内)	2010年4月～2011年3月	サンプリング調査(作業所(施工))と全数調査(オフィス)の併用

■ 環境保全コスト

単位：百万円(十万円以下は切り捨て)

分類	主な活動内容	2007	2008	2009	2010	割合(%)
事業エリア内コスト ※1		3,366	3,299	3,644	3,079	87.6
公害防止コスト ※2	作業所における公害防止対策(大気汚染・水質汚染・ 土壌汚染・騒音防止・振動防止等)	2,702	2,697	2,717	2,249	64.0
地球環境保全コスト ※2	地球温暖化防止・省エネルギー・オゾン層破壊防止対策	1	1	38	87	2.5
資源循環コスト ※1	資源の効率化利用 産業・一般廃棄物のリサイクルおよび処理・処分等	663	601	889	743	21.1
上下流コスト ※1		20	19	15	15	0.4
管理活動コスト ※1	環境マネジメントシステム整備・運用、環境情報の開示、 環境広告、環境負荷監視、従業員への環境教育等	350	342	193	172	4.9
研究開発コスト ※3		206	164	199	202	5.7
社会活動コスト ※1	NGO・環境団体への協賛金・寄付、地域住民の行なう 環境活動に対する支援および情報提供等	33	32	36	44	1.3
環境損傷対応コスト ※1	自然修復のためのコスト、緊急事態対応費用等	15	16	38	4	0.1
合計		3,990	3,872	4,125	3,516	100.0

※1：サンプリング調査と全数調査併用 ※2：サンプリング調査 ※3：オフィス活動

■ 環境保全効果(オフィス活動)

(単位以下は切り捨て)

大分類	中分類	単位	2006	2007	2008	2009	2010
資源	コピー用紙	万枚	1,164	991	1,032	937	857
	上水道	百m ³	120	106	109	84	49
エネルギー	電力	万 kWh	424	381	348	314	231
	灯油	kℓ	0.3	0.1	8.6※1	11※1	11
	重油	kℓ	0	0	0	0	0
	ガス	千m ³	51	54	39	18	17
一般廃棄物※2	発生量	t	213	159	114	177	32
	リサイクル量	t	174	118	78	84	27
	処分量	t	39	41	36	93	5
有害物質※2	蛍光灯安定器※3	個	1,041	1,041	1,077	1,077	1,077
	PCBコンデンサー・変圧器 ※3	個	106	114	117	117	117

※1：改正省エネ法適用に向け、調査範囲拡大による数値増加 ※2：本社が対象 ※3：保管数量